

1 単元名 G ダンス（現代的なリズムのダンス）

2 単元の目標

- (1) 次の運動について、感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、イメージを捉えた表現や踊りを通した交流をすることができるようにする。

ウ 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で踊ることができるようにする。 【知識及び技能】

- (2) 表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

【思考力, 判断力, 表現力等】

- (3) ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、交流などの話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。 【学びに向かう力, 人間性等】

3 単元について

(1) 教材観

ダンスは、創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスで構成され、イメージを捉えた表現や踊りを通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動で、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

第1学年及び第2学年では、感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方などを理解するとともに、イメージを捉えた表現や踊りを通した交流ができるようにする。その際、表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにすることが大切である。

また、ダンスの学習に積極的に取り組み、仲間の学習を援助することや一人一人の違いに応じた表現や役割を認めることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配ることができるようにすることが大切である。

(2) 生徒観

男子生徒 18 名，女子生徒 18 名の計 36 名のクラスである。男女間も含め生徒同士の仲も良く，困っている人へのサポートや準備片付けなどに自発的に取り組むことができる生徒や，何事にも積極的に取り組む学習意欲の高い生徒が多い。

学年全体で授業前に実施したダンスについてのアンケート調査では，「好き」・・・30.6%，「どちらかといえば好き」・・・48.5%，「どちらかといえば嫌い」・・・15.7%，「嫌い」・・・5.2%という結果となり，多くの生徒がダンスに対して肯定的な印象を持っている。

また，昨年度の 1 年次に，ダンスの授業を 8 時間取り組んでいる。授業当初は，未知な領域に戸惑う生徒も多かったが，基本的な動きを繰り返し練習し，習得していく中で仲間と踊る楽しさを実感していた生徒が授業後のアンケート調査等から見受けられた。とりわけ，最後の発表会では，今まで練習してきた成果を発揮し，各グループ堂々と踊る姿が見られた。

(3) 指導観

多くの生徒は，はじめは人前で踊ることに抵抗があり「羞恥心」を抱いてしまう。だからこそまずは教師が先頭に立ち，一連の流れをゆっくりと丁寧に教え，共に繰り返し練習することが大切だと考える。

この過程でいかに生徒の目線に立ち，習得しやすいワードを選択して伝えていくことや習得した瞬間を見逃さず，褒めて認めることが授業の中で生徒との信頼関係を築き，生徒が持つ「羞恥心」取り除くことにつながるのではないかと考える。そして，習得できたときの喜びや習得したものを仲間と合わせることができたときの達成感は生徒自身の「自信」に変わると考える。

本単元では昨年度の経験を踏まえ，「動きを身に付けること」から「身に付けた動きを発展させ創作すること」に挑戦させていきたい。その際に，「羞恥心」「超自分」「想像力」のキーワードのもと，自分や他者が考え感じるものを交流させる場面を大切にし，互いを認め合いながら創作活動ができるよう指導内容を工夫していきたい。

4 全体研究・教科研究との関わり

(1) 「主体的な学び」のプロセスモデルにおける「学習方略」

昨年度の課題を踏まえ，「主体的な学び」のプロセスモデルにおける「学習方略」を言語化し，生徒と共有することを目指したい。言語化し，明確にすることで生徒自身が自らの学びをモニターしたり，調整したりできるようになると考える。

また，生徒と教師，生徒同士が共有することで，教師の指導が伝わりやすくなったり，生徒同士の学び合いが盛んになったりすると考える。その学びの姿は，「主体的な学び」のプロセスモデルを生かした学びの姿であるといえる。ただし，教師が言語化したものを与えるだけでは，“主体的”ではないと考える。生徒の学びの中から紡ぎだされたものであってこそ意義がある。2 年次は，授業実践の中で生徒とともに主体的な学びにおける「学習方略」を練り上げていきたい。

保健体育科で示した「学習方略」の内容のもと，特に ICT を活用し，「自分の姿を映像に記録し，振り返ること」，「自分と他者の映像を比較し，他者の考えを受け入れ作品を再構築すること」を本授業で意識的に行うことで，「学習方略」の言語化を実践し生徒自身の学びの調整に繋げていきたい。

(2)「新たな意味や考え方を見出す思考力，判断力，表現力等」を育成するための手立てや評価の工夫

2年次は，保健体育科における「新たな意味や考え方を見出す思考力，判断力，表現力等」を明確にした上で，その育成のための手立てを整理し，新たな手立てを考えたい。そして，それを見取るための評価を工夫し，その評価をもとに教師が指導の改善を行うことができるようにしたい。

また，全体研究で示されている内容をもとに，「教師視点の目標提示」や「生徒視点の個人目標の設定」，「話し合い活動の工夫」といった手立てを設定していく。そして，本授業で仲間との「創作活動」を通して，生徒の発言や学習カード，グループカード，ICT等を使用して創作作品の変容を見取り「思考・判断・表現」の評価に繋げていきたい。

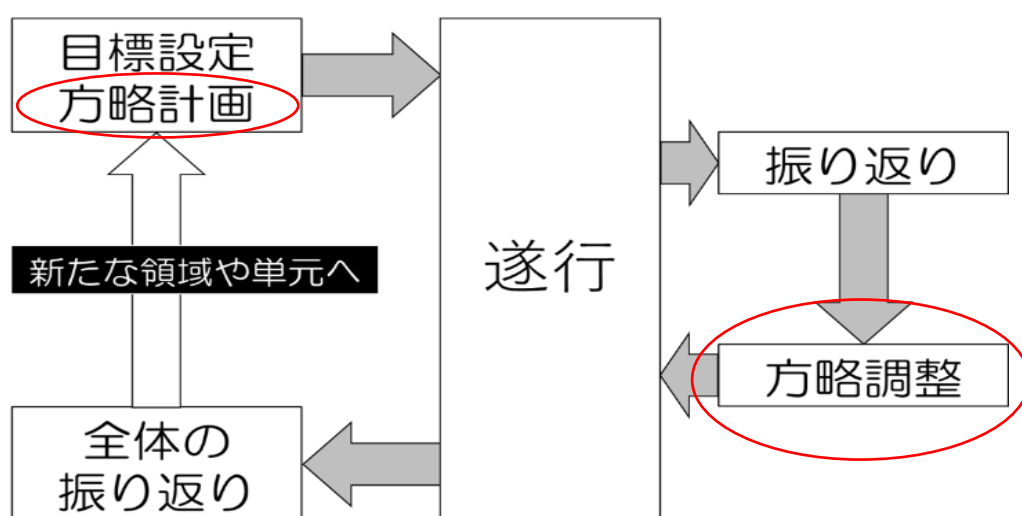


図1 「主体的な学び」のプロセスモデル

	エンゲージメントの高まり（生徒の姿）
目標設定	・ 高いレベルの関心をもつ課題や日常生活で直面する課題，現実世界で解決すべき課題，自らのキャリア形成に関連する課題を選択する。 ・ 挑戦の感覚，知的好奇心，学習への期待感をもつ。
方略計画	・ ゴールを設定し，過去の学習経験を生かしながら，課題解決のための学習方略を考える。
遂行	・ 計画に基づいて，学習を遂行する。 ・ 計画した方略や必要に応じて調整した方略に基づいて，個人やグループでの学習活動に熱心に参加する。
振り返り	・ 自らの学びの効果を振り返る。また，学習の進み具合を把握し，見通しをもつ。
方略調整	・ 必要に応じて学習方略を修正する。
全体の振り返り	・ 自らの学びの質や成果を振り返る。 ・ 学ぶ面白さや楽しさを感じたり，有能感や充実感をもったりする。

5 全ての「単元の評価規準」

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 - ダンスは、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることを楽しむことや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出したりしている。 - ダンスは、様々な文化の影響を受け発展してきたことについて、言ったり書き出したりしている。 - それぞれのダンスには、表現の仕方に違いがあることについて、学習した具体例を挙げている。 - ダンスはリズムカルな全身の動きに関連した体力が高まることについて、学習した具体例を挙げている。	○技能 - 自然な弾みやスイングなどの動きで気持ちよく音楽のビートに乗れるように、簡単な繰り返しのリズムで踊ることができる。 - 軽快なリズムに乗って弾みながら、揺れる、回る、ステップを踏んで手をたたき、ストップを入れるなどリズムを捉えて自由に踊ったり、相手の動きに合わせてたりずらしたり、手をつなぐなど相手と対応しながら踊ることができる。 - シンコペーションやアフタービート、休止や倍速など、リズムに変化を付けて踊ることができる。 - 短い動きを繰り返す、対立する動きを組み合わせる、ダイナミックなアクセントを加えるなどして、リズムに乗って続けて踊ることができる。 ※創作ダンス、フォークダンスは省略	- 提示された事例を参考に、自分の興味や関心に合ったテーマや踊りを設定している。 - 提示された踊りのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間やグループの課題や出来映えを伝えている。 - 提供されたテーマや表現の仕方から、自己やグループの課題に応じた練習方法を選んでいる。 - 学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 - 仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、グループへの関わり方を見付けている。 - 体力の程度や性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための表現や交流を行う方法を見付け、仲間に伝えている。	- ダンスに積極的に取り組もうとしている。 - 仲間の手助けをしたり助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 - 簡単な創作作品などについての話合いに参加しようとしている。 - 一人一人の違いに応じた表現や交流の仕方などを認めようとしている。 - 健康・安全に留意している。

6 「具体的な単元の評価規準」

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①ダンスは、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることを楽しむことや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出したりしている。 ②それぞれのダンスには、表現の仕方に違いがあることについて、学習した具体例を挙げている。	○技能 ①軽快なリズムに乗って弾みながら、揺れる、回る、ステップを踏んで手をたたき、ストップを入れるなどリズムを捉えて自由に踊ったり、相手の動きに合わせてたりずらしたり、手をつなぐなど相手と対応しながら踊ることができる。 ②シンコペーションやアフタービート、休止や倍速など、リズムに変化を付けて踊ることができる。 ③短い動きを繰り返す、対立する動きを組み合わせる、ダイナミックなアクセントを加えるなどして、リズムに乗って続けて踊ることができる。	①提示された踊りのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間やグループの課題や出来映えを伝えている。 ②提供されたテーマや表現の仕方から、自己やグループの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、グループへの関わり方を見付けている。	①仲間の手助けをしたり助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ②一人一人の違いに応じた表現や交流の仕方などを認めようとしている。 ③健康・安全に留意している。

7 具体的な指導内容と「単元の評価規準」

知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
知識	技能		
単元を通して「羞恥心」「超自分」「想像力」をキーワードにダンスに挑戦させ新たな自分を見付けること。  ①ダンスは、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出したりしている。	ユニゾン、カノン、アシンメトリー、ソロなどを身に付け、リズムの特徴を捉えて強調すること。  ①軽快なリズムに乗って弾みながら、揺れる、回る、ステップを踏んで手をたたく、ストップを入れるなどリズムを捉えて自由に踊ったり、相手の動きに合わせてたりずらしたり、手をつなぐなど相手と対応しながら踊ることができる。	ICTを活用させ、自己やグループをより客観的に観察し、表現などの改善のポイントや課題を伝えること。  ①提示された踊りのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間やグループの課題や出来映えを伝えている。	仲間の学習を援助することは、自己の能力を高めたり仲間との連帯感を高めて気持ちよく活動したりすることにつながるという目的に適した仲間との関わり方があること。  ①仲間の手助けをしたり助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。
単元を通して自身で表現したり、仲間の表現や踊りを通して、他者との違いを観察すること。  ②それぞれのダンスには、表現の仕方に違いがあることについて、学習した具体例を挙げている。	変化のある動きを組み合わせ、続けて踊ること。  ②シンコペーションやアフタービート、休止や倍速など、リズムに変化を付けて踊ることができる。	学習のプロセスモデルを意識し、自己に合った方略調整（合理的な解決に向けて運動の取り組み方）を選ぶこと。  ②提供されたテーマや表現の仕方から、自己やグループの課題に応じた練習方法を選んでいる。	体力や技能の程度、性別や障害の有無等に応じて、自己の状況にあった実現可能な課題の設定や挑戦及び交流の仕方を認めようとする。  ②一人一人の違いに応じた表現や交流の仕方などを認めようとしている。
	体の各部位でリズムをとったり、体幹部を中心にリズムに乗ったりして全身で自由に弾みながら踊ること。  ③短い動きを繰り返す、対立する動きを組み合わせる、ダイナミックなアクセントを加えるなどして、リズムに乗って続けて踊ることができる。	仲間との関わり合いや自己の取り組み方などを見付けること。  ③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、グループへの関わり方を見付けている。	

8 指導と評価の計画

単元の目標	知識及び技能		次の運動について、感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流をすることができるようにする。 ウ 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で踊ることができるようにする。										
	思考力、判断力、表現力等		表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。										
	学びに向かう力、人間力等		ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、交流などの話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。										
	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	授業づくりのポイント	
学習の流れ	0	オリエンテーション	健康観察・準備運動、本時の学習内容の確認										・「羞恥心」「超自分」「想像力」をキーワードとし、全員が踊ることができる授業を展開する。
	10		ストレッチ、ステップ、共通課題の動き等の反復練習										
	20	リズム運動	【共通課題の動きの練習】 課題曲のサビの部分(8カウント×4)の動きを習得させる ※授業前のアンケート結果で「昨年度より難しいダンスに挑戦したい」という生徒が全体の7割以上を占めていたので挑戦したい生徒は難易度を上げたものを、昨年度のリベンジをした人は昨年度行った動きを行う		【創作活動①】 課題曲のサビ後の(8カウント×4)の動きを創作させる。 グループで前時までに身につけたステップを活用・発展させ作品を構成していく。		【作品練習】 【中間発表】	【創作活動②】 中間発表において他グループから出てきた作品構成を深めるための知識・技能に気づかせ、整理する。 ↓ ・個の動き ・集団の動き 個人の技術を高め、グループの中でより効果的な技法を思考させる。		発表会			
	30		各ステップ練習										
	40		グループで見せ合い感想を伝え合う						単元のまとめ	・ICTを活用し、自己の動きや自己のグループの動きを客観的に評価させ学習の振り返りや方略調整に活かす。 ・学びのプロセスモデルを意識させる。			
	50	学習カード記入、健康観察、本時の振り返り、次時の確認											
評価機会		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	評価方法	
	知識	①					②				総合的な評価	学習カード	
	技能				①			②		③		観察、ICT	
	思・判・表					①			②	③		学習カード、ICT、観察	
	態度		(①)	①				②				観察、学習カード	
単元の評価規準	知識	①ダンスは、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出したりしている。 ②それぞれのダンスには、表現の仕方に違いがあることについて、学習した具体例を挙げている。											
	技能	①軽快なリズムに乗って弾みながら、揺れる、回る、ステップを踏んで手をたたき、ストップを入れるなどリズムを捉えて自由に踊ったり、相手の動きに合わせたりずらしたり、手をつなぐなど相手と対応しながら踊ることができる。 ②シンコペーションやアフタービート、休止や倍速など、リズムに変化を付けて踊ることができる。 ③短い動きを繰り返す、対立する動きを組み合わせる、ダイナミックなアクセントを加えるなどして、リズムに乗って続けて踊ることができる。											
	思・判・表	①仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、グループへの関わり方を見付けている。 ②提示された踊りのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間やグループの課題や出来映えを伝えている。 ③提供されたテーマや表現の仕方から、自己やグループの課題に応じた練習方法を選んでいる。											
	態度	①仲間の手助けをしたり助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ②一人一人の違いに応じた表現や交流の仕方などを認めようとしている。											

9 時案（8/12時間目）

（1）日時 令和5年11月23日（木） 2校時（9：45～10：35）

（2）場所 山梨大学教育学部附属中学校 体育館

（3）本時の目標（指導の重点）

- ・創作活動などの話合いの場面で，創作（踊り）のポイントや課題（つまずき）の事例を参考に，仲間やグループの課題や出来映えを伝えることができるようにする。

（思考力，判断力，表現力等）

（4）本時の評価規準（評価の重点）

- ・創作活動などの話合いの場面で，創作（踊り）のポイントや課題（つまずき）の事例を参考に，仲間やグループの課題や出来映えを伝えている。

（思考・判断・表現）

（5）展開

	学習内容と学習活動	教師の指導・支援
はじめ 5分	○整列，挨拶，出席及び健康状態の確認 ○本時のねらいの確認 ねらい 自分が見つけた創作のヒントを共有し，グループの作品をパワーアップさせよう！ ※前時までの各グループの創作作品を視聴し，個人でダンスワークシートを作成しておく。	○本時の学習について，ホワイトボードを活用しながら説明を行う。 【意識したい創作のポイント】 ・習得したステップを活用し，発展させる。 ・曲やリズムの特徴を捉える。 ・動きや構成に変化をもたせる。
なか 40分	【共通課題練習】※教師主体（図は別紙参照） ○課題曲のサビの部分全体で踊る（動きを覚える，カウントやビートを捉える，ダウン&アップ，視線を意識する。）＜5分＞ 【創作活動②】※生徒主体（図は別紙参照） 【問い】他のグループの創作作品の良いところはどんなところだろう ○各グループで作品を視聴して感じたことを共有する。＜5分＞ ・事前に個人ダンスワークシートに記載してきた内容を発表する。 ・自分たちの作品に生かせるポイントを見付ける（ステップ，曲やリズムの特徴の捉え方，動きや構成の変化など。） ○全体で「個の動きの特徴」「集団の動きの特徴」に視点を置いて共有し，知識を整理する。＜5分＞ ○グループシートを活用しての作品を再創作する。＜25分＞ ・ワークシートや映像を活用し，自分たちを客観視する。 ・グループで共有した内容をもとに既存の動きや構成をいかして作品を発展させる。	○体の使い方や動きのポイントを確認しながら練習を進めることができるようにする。 ○他者や他のグループの動きを観察し，仲間やグループの援助を活発にできるようにする。 【評価】 ・創作活動などの話合いの場面で，創作のポイントや自己やグループの課題を参考に，自己の考えを仲間に伝えている。（観察・学習カード） 【努力を要する生徒への手立て】 ・観察する場面の視点や動きのポイントを伝え，気づいたことや改善点を仲間に伝えることができるように支援する。 ・キーワードを意識し，踊らせる。

まとめ 5分	○各グループから何を得て、作品をどのように変化させることができたかを全体で共有する。 ○本時の反省を記入 ○本時のまとめをし、次時の学習内容を知る。	○成果と課題を学習カードに記入できるように指導する。 ○授業を振り返っての評価と次時の確認を行う。
-----------	---	---

10 補助資料

【単元キーワード】

羞恥心：恥ずかしい気持ちを捨て、自分の殻を破ろう！

超自分：新しい自分を発見し、スーパーサイヤ人になろう！

想像力：発想を豊かに動きを創造しよう！

【リズムの特徴】

「① ● ② ● ③ ● ④ ● ⑤ ● ⑥ ● ⑦ ● ⑧ ●」

①・・・1カウント×8⇒ワンエイト（エイトビート）

①・・・オンカウント

●・・・エンカウント

【各種ステップ】

サイド：右→揃える→左→揃える ★手は自由

クロス：右→クロス→右→揃える→左→クロス→左→揃える

ボックス：前→クロス→後ろ→揃える ★手は自由

シャッフル：蹴って→着いて→後ろ ★手は自由

クラブ：つま先とかかとを動かす

チャールストン：つま先重心で足をイン・アウトに動かし、入れ替える 前後に動く

ランニングマン：後ろ足を上げて、前に下ろす

○ビズマキー：※両手を開き、出した時軽くジャンプ→右パンチ→ ※ →左パンチ

○パドブレ：横・後ろを揃える 体の向きは斜めに変えていく など

【個の動きの特徴】

手拍子、足拍子、同じ動きを繰り返す

強い⇄弱い、速い⇄遅い、伸ばす⇄曲げる、高い⇄低い、動く⇄止まる など

【集団の動きの特徴】

ソロ：一人で踊る

ユニゾン：全員で同じ動きを踊る

カノン：カウントをずらして踊る

アシンメトリー：左右非対称で踊る など

指導案別紙

「教師主体」，「生徒主体」 各活動ごとの体育館使用図

【共通課題練習】＜5 分＞ ※教師主体

○課題曲のサビの部分全体を踊る（動きを覚える，カウントやビートを捉える，ダウン＆アップ，目線を意識する。）

ステージ 教師		
グループ 1	グループ 2	グループ 3
グループ 4	グループ 5	グループ 6

※グループ内の隊形は各グループの作品構成によって異なります。

【創作活動②】※生徒主体

ステージ 教師		
グループ 1	グループ 2	グループ 3
グループ 4	グループ 5	グループ 6

※グループ内の隊形は各グループの作品構成によって異なります。



ダンス学習カード

年 組 番 氏名

【ダンスを踊ることは好きですか？】 YES or NO

【イメージ、興味・関心、知っていること、できること】 ~Before~

【単元の達成目標】

<知識及び技能>

リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で踊ることができる！

<思考力・判断力・表現力等>

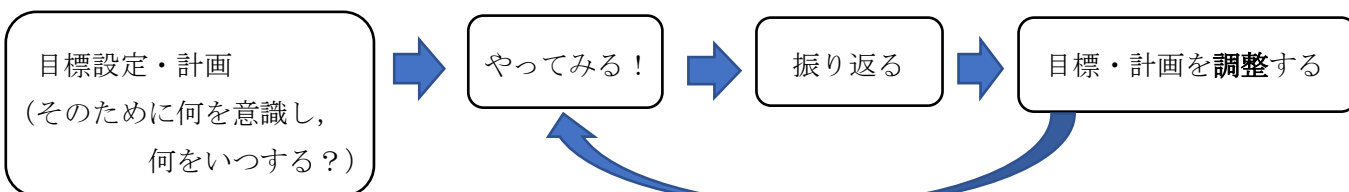
表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる！

<主体的に学習に取り組む態度>

仲間の学習を援助しようとする、交流などの話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとする、など

オリエンテーション

【学びのプロセス】



★学びのプロセスを大切に、「主体的に学習できる」自分をつくろう！

【自己の目標】

【目標を達成するために必要なこと、意識することなど】

★キーワード

「羞恥心」 「超自分」 「想像力」

単元の全体計画

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
オリエンテーション	ストレッチ、音取り、ステップ等の反復練習								発表会
	共通課題の動きの練習				共通課題の動きの練習				
					創作活動①	中間発表	創作活動②		

学習シート

1 時間目	／ ()	授業目標：
【目標に対しての成果と課題】		
【自己の目標・計画の調整】		【仲間からのアドバイス】
2 時間目	／ ()	授業目標：
【目標に対しての成果と課題】		
【自己の目標・計画の調整】		【仲間からのアドバイス】
3 時間目	／ ()	授業目標：
【目標に対しての成果と課題】		
【自己の目標・計画の調整】		【仲間からのアドバイス】
4 時間目	／ ()	授業目標：
【目標に対しての成果と課題】		
【自己の目標・計画の調整】		【仲間からのアドバイス】

5 時間目	／ ()	授業目標：
【目標に対しての成果と課題】		
【自己の目標・計画の調整】		【仲間からのアドバイス】
6 時間目	／ ()	授業目標：
【目標に対しての成果と課題】		
【自己の目標・計画の調整】		【仲間からのアドバイス】
7 時間目	／ ()	授業目標：
【目標に対しての成果と課題】		
【自己の目標・計画の調整】		【仲間からのアドバイス】
8 時間目	／ ()	授業目標：
【目標に対しての成果と課題】		
【自己の目標・計画の調整】		【仲間からのアドバイス】
9 時間目	／ ()	授業目標：
【目標に対しての成果と課題】		
【自己の目標・計画の調整】		【仲間からのアドバイス】

10時間目	／ ()	授業目標：
【目標に対しての成果と課題】		
【自己の目標・計画の調整】		【仲間からのアドバイス】
【興味・関心，新たに知ったこと，できるようになったこと】 ～After～		
【単元を終えての感想】		



ダンスワークシート（※本時までには各自記入）

『仲間の作品から創作のヒントを見付け、自分や仲間の

考えたことを伝えて作品をパワーアップさせよう！』

年 組 番 氏名 (チーム名 ())

【創作のポイント】

- ・ 習得したステップを活用し，発展させる。
- ・ 曲やリズムの特徴を捉える。
- ・ 動きや構成に変化をもたせる。

○考える視点

- ①BEST ダンサーは誰？ なぜ目を引くのだろうか？
- ②他のグループの作品を見て印象的なシーンはどこ？ なぜ印象に残ったのだろうか？

【ポイントとなる動きや構成】

【共有したい内容】

創作構成 グループシート (1 エイト × 4 = 4 エイト)

1 エイト ()

1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8 -



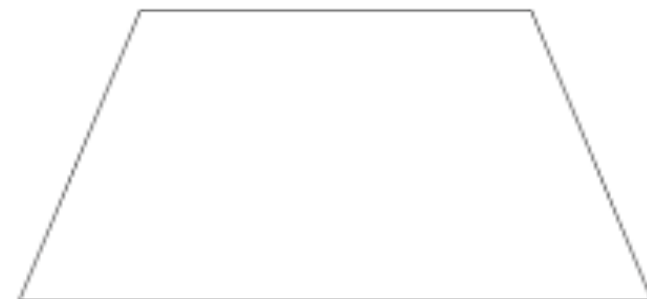
2 エイト ()

1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8 -



3 エイト ()

1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8 -



4 エイト ()

1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8 (FINISH)



全体研究主題

「新たな価値を創造する生徒の育成～「主体的な学び」のプロセスモデルを生かした実践を通して～」

「新たな価値を創造する生徒」→「創造性に富んだ生徒」

「創造性」とは、

- ★自ら課題を見出し、その課題に関わる事象について自分なりに新たな意味や考え方を見出すことで解決すること
- ★その中で課題解決によって、自分自身や周囲の人々の人生、社会全体をより豊かに、よくすることができること（＝価値を創造する）これまでに得た知識や経験を結び付けたり、これまでとは異なる視点や文脈の中で捉えたりすることが必要になってくる。

保健体育科で捉える「創造性」（評価の３つの観点から）

- ★「知識及び技能」→自ら見出した課題の解決に必要な資質・能力
- ★「思考力・判断力・表現力等」→課題の解決に向かって、新しい知見や技術革新を取り入れながら、これまでに得た知識や経験を結び付け、新たな意味や考え方を見出したり試してみたりする資質・能力
- ★「学びに向かう力・人間性等」→課題の解決に主体的に取り組もうとする態度であり、何回も挑戦したり試してみたりしながら改善や解決に向けて調整を試みる資質・能力

1 年次の研究

各教科で捉える「創造性」をより明確にし、その育成の手立てを授業実践として示すことを研究のスタート地点の一つとした。

2 年次の研究

★「主体的な学び」のプロセスモデルを意識させた学びを実現するための手立て

→各「学習課程」とそこで活用される「学習方略」を言語化し、生徒と共有すること。

ダンスの授業では、はじめのオリエンテーションで「学びのプロセスモデル」を軸に単元目標を確認し、12時間の見通しを持った上で自己の目標とそれを達成するための方略計画を個々に立てさせる。生徒たちは毎時間その計画的に合わせて授業を進めていく中で、より良く目標に近づくためには何が必要かを思考し、方略調整を行っていく。今の自分に何が必要かを自分なりに見出し、全体で共有すること（言語化）で方略調整の方法や価値を広げさせていきたい。

★新たな意味や考え方を見出す思考力・判断力・表現力を育成する手立て

→各教科における「新たな意味や考え方を見出す思考力・判断力・表現力」を明確にした上で、その育成のための手立てを整理したり、新たな手立てを考えたりしたい。

★「思考力・判断力・表現力等」→課題の解決に向かって、新しい知見や技術革新を取り入れながら、これまでに得た知識や経験を結び付け、新たな意味や考え方を見出したり試してみたりする資質・能力

ダンス（現代的なリズムのダンス）の授業において既存の知識・技能を活用し、創作活動に励む中で、他者との関わりを意図的に仕組んでいく。既存の知識・技能の新たな活用の方法や新たな結び付け方を他者から学び、自己や自グループの作品にどう生かせるか伝え合い（思考力・判断力）、創作作品をより良いものに変化させる（表現力）ことができるようにしたい。